

<第99回調査>

2017年8月28日

【本調査の目的】

2009年6月の第1回調査を皮切りに、(株)外為どっとコムは口座開設者のお客様を対象として、「投資動向等に関するアンケート調査」を毎月定期的を実施していましたが、2010年8月の第15回調査より、その名称を「外為短期投資動向調査(略称:外為短観)」に改めました。本レポートは、同調査の結果に基づき、(株)外為どっとコム総合研究所がその一部を取りまとめるという形で対外的に公表するものです。

近年の外国為替市場において、本邦の外国為替保証金取引への関心が強まっているのは周知の通りですが、その実像を把握するのに必要な統計データ等の整備は、既存のマクロ経済データや金融関連データなどに比べて遅れているのが実情です。今後こうした調査を継続的に実施することで、時系列で比較した個人投資家層の相場感の変化や投資家属性別の投資動向の特徴などを精査し、当社の調査研究活動の深化につなげるとともに、その一部を社会に還元することが、本調査の目的です。

また、本調査におきましては、国内外の市場参加者が注目する各種イベント前後の時期に、不定期のアンケート調査の結果も公表いたします。定点観測の調査結果と合わせて、ご参考にして頂ければ幸いです。

【調査実施期間】

2017年8月15日(火)13:00~2017年8月22日(火)13:00

※毎月中旬から下旬にかけての1週間を調査期間としています。

【調査対象】

(株)外為どっとコムの『外貨ネクストネオ』に口座を開設のお客様層

【調査方法】

(株)外為どっとコムの口座開設者にメールでアンケート回答URLを送付。

今回の有効回答数は707件。

※必要項目を全て入力して回答して頂いたお客様を「有効回答数」としました。

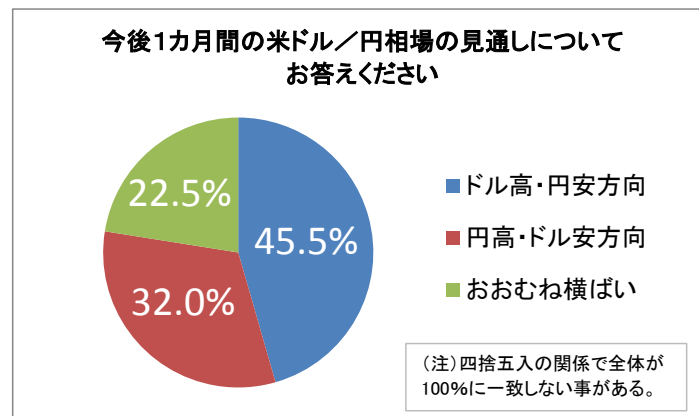
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2017 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【第99回調査結果略報：3カ月ぶりに米ドル強気見通しへ転換】

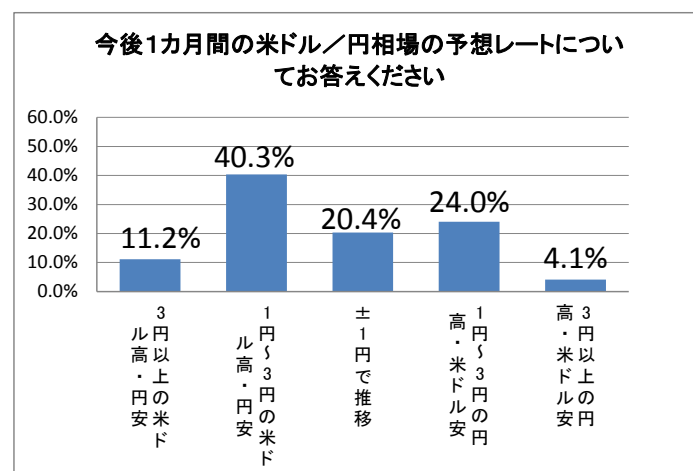
問1：今後1カ月間の米ドル/円相場の見通しについてお答えください

「今後1カ月間の米ドル/円相場の見通し」については、「ドル高・円安方向」と答えた割合が45.5%であったのに対し「円高・ドル安方向」と答えた割合は32.0%であった。この結果「米ドル/円予想DI」は△13.5%ポイントとなり、3カ月ぶりに先行き「強気」を示すプラス圏へ転換した。調査期間中の米ドル/円相場は、111円台目前まで上昇したものの108.60円台へと失速。米ホワイトハウスの内紛や北朝鮮情勢の緊迫化が米ドルの重しとなったが、FX投資家はこれを「押し目買いの好機」と捉えた可能性がある。なお、外為どっとコムにおける顧客のポジションバランスは、この期間中に米ドル買い・円売り(ロング)ポジションが増加しており、実際に押し目買いに動いた様子が見て取れる。※過去の米ドル円予想DIの推移はP7-8に掲載。



問2：今後1カ月間の米ドル/円相場の予想レートについてお答えください

「今後1カ月間の米ドル/円相場の予想レート」については、「1円～3円の米ドル高・円安」が40.3%と最も多く、「1円～3円の円高・米ドル安(24.0%)」、「±1円で推移(20.4%)」と続き、以下「3円以上の米ドル高・円安(11.2%)」、「3円以上の円高・米ドル安(4.1%)」の順になった。ヒストグラムの形状は、米ドル高・円安方向に傾いており、問1で示された米ドル強気・円弱気予想と整合的だ。また、前回に続き「±1円で推移」の割合が低く、相場水準が現状近くに留まるとの見方が少ないのも特徴と言えるだろう。



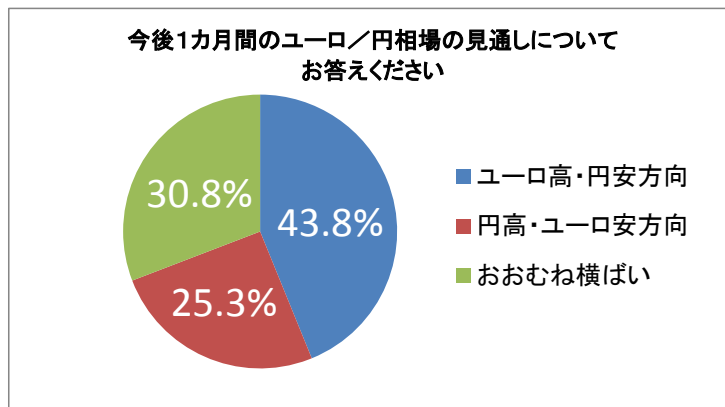
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2017 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問3: 今後1カ月間のユーロ/円相場の見通しについてお答えください

「今後1カ月間のユーロ/円相場の見通し」については、「ユーロ高・円安方向」と答えた割合が43.8%であったのに対し、「円高・ユーロ安方向」と答えた割合が25.3%であった。この結果、「ユーロ/円予想DI」は△18.5%ポイントと、2カ月連続でプラス圏を維持し、前回(△14.8%ポイント)から小幅に上昇した。調査期間中のユーロ/円相場は、130円台を回復したかと思えば127円台に沈むなど方向感を欠く展開であったが、FX投資家のユーロ強気・円弱気予想が揺らぐ事はなかった。9月7日の欧州中銀(ECB)理事会までに、ドラギ総裁が超金融緩和からの出口を宣言するとの期待が根強いのかもしれない。

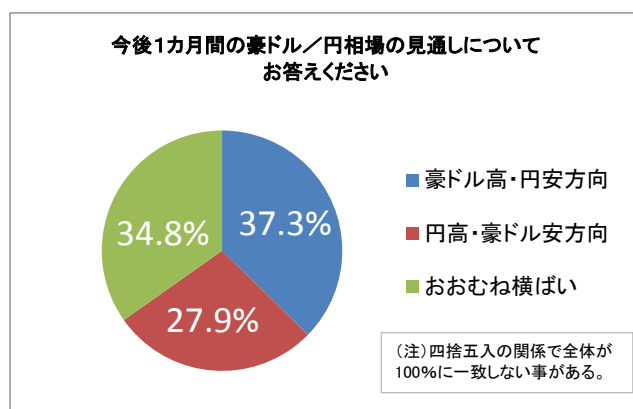
※過去のユーロ円予想DIの推移はP6-7に掲載。



問4: 今後1カ月間の豪ドル/円相場の見通しについてお答えください

「今後1カ月間の豪ドル/円相場の見通し」については、「豪ドル高・円安方向」と答えた割合が37.3%であったのに対し、「円高・豪ドル安方向」と答えた割合は27.9%であった。この結果「豪ドル/円予想DI」は△9.4%ポイントとなり、前回の△15.9%ポイントからプラス幅は縮小したが、4カ月連続でプラス圏を維持した。調査期間中の豪ドル/円相場は、86円台と87円台を往来するなど、夏休みシーズンとあって方向感を欠く展開であった。こうした中、FX投資家の見通しも前回から大きく変化しなかったようだ。

※過去の豪ドル円予想DIの推移はP6-7に掲載。



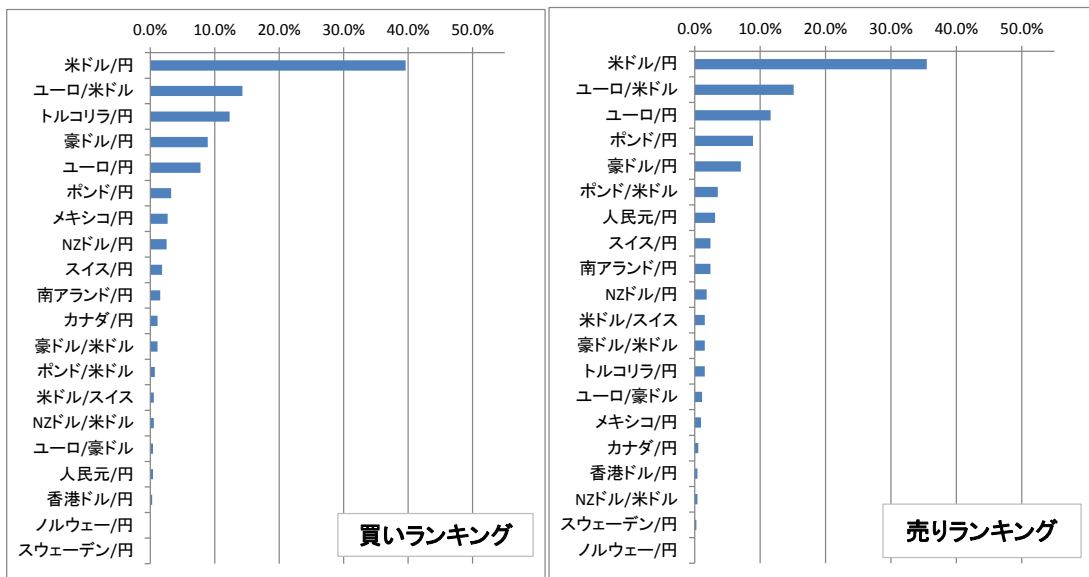
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2017 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問5: 今後、注目の通貨ペアについてお答えください

「今後注目している通貨ペア」について尋ねたところ、「買い」で注目の通貨ペアは、米ドル/円が39.6%の回答割合を集めて1位であった。以下、ユーロ/米ドル(14.3%)、トルコリラ/円(12.3%)、豪ドル/円(8.9%)、ユーロ/円(7.8%)の順に続いた。米ドル/円が前回から回答割合を増やして連続首位記録を59カ月に伸ばした。また、ユーロ/ドルも5カ月連続で2位をキープした。トルコリラ/円が前回の4位からひとつ順位を上げたほかは、大きな変動は見られなかった。

一方、「売り」で注目の通貨ペアは米ドル/円が35.5%の回答割合を集めて10カ月連続で首位の座をキープした。以下、ユーロ/米ドル(15.1%)、ユーロ/円(11.6%)、ポンド/円(8.9%)、豪ドル/円(7.1%)の順に続いた。こちらも、上位陣の顔ぶれに変化はないが、ユーロ/ドルが前回の4位から2位に上昇したのが印象的だ。これにより、「買い」で注目と「売り」で注目の順位が1・2位とも同じ通貨ペアになった。それぞれの回答割合にも大きな差はなく、FX投資家の見通しに強弱が対立している様子が見て取れる。

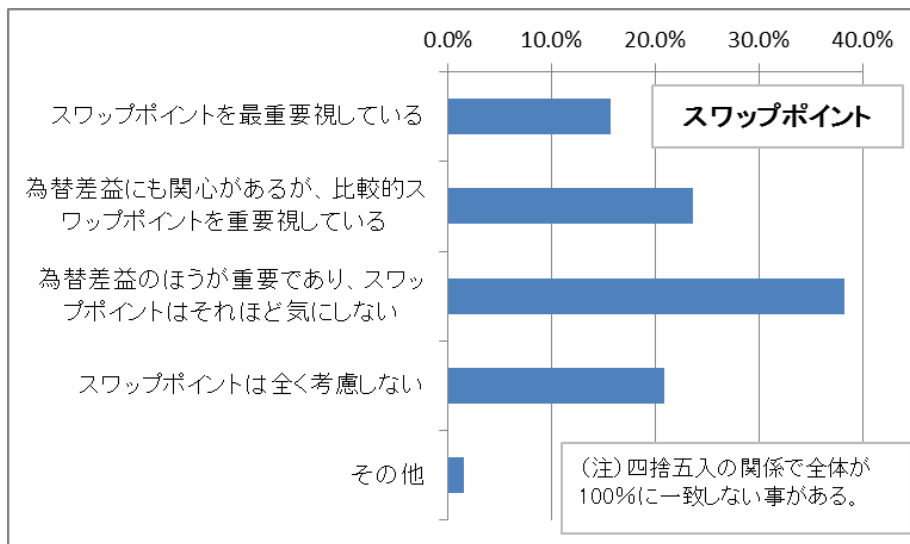


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2017 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問6: スワップポイントがFX投資の判断に与える影響について、次のうちあてはまるのは(ひとつだけ)?

今回の特別質問として、「スワップポイントがFX投資の判断に与える影響について、次のうちあてはまるのは(ひとつだけ)?」と尋ねたところ、最も多かったのは「為替差益(キャピタルゲイン)のほうが重要であり、スワップポイントはそれほど気にしない」の38.2%であった。以下、「為替差益(キャピタルゲイン)にも関心があるが、比較的スワップポイントを重要視している(23.6%)」、「スワップポイントは全く考慮しない(20.9%)」、「スワップポイントを最重要視している(15.7%)」と続いた。その理由を自由記述形式で尋ねたところ「それほど気にしない」「全く考慮しない」とした向きからは「デイトレードだから」との回答が目立った。一方、「比較的重視」「最重要視」とした向きは「中長期保有のため」「塩漬けの場合の保険になる」などと回答した。また「マイナススワップの場合は特に気になる」との声もあった。なお、今回の調査では「それほど気にしない」と「全く考慮しない」の合算割合が59.1%に上っており、「比較的重視」と「最重要視」を合わせた39.3%を上回った。2016年5月に同様の質問をした際の割合は、それぞれ58.6%、40.1%であった。この間、米国やカナダなどで政策金利の引上げがあったにもかかわらずFX投資家のスワップポイントに対する意識は大きく変わっていないようだ。

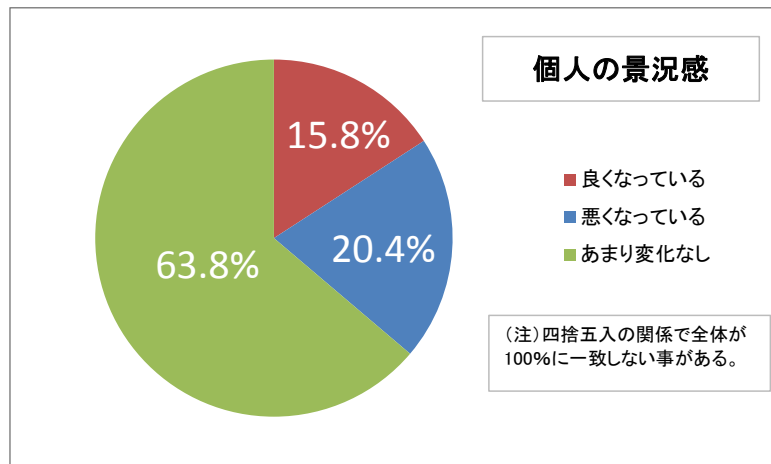


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2017 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問7:あなた個人の「景況感」はいかがですか？(ひとつだけ)

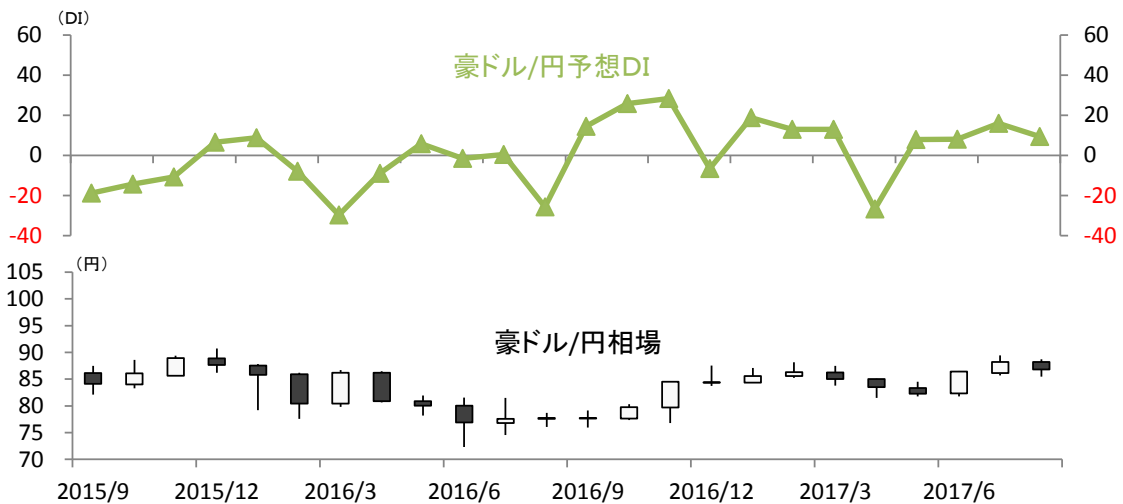
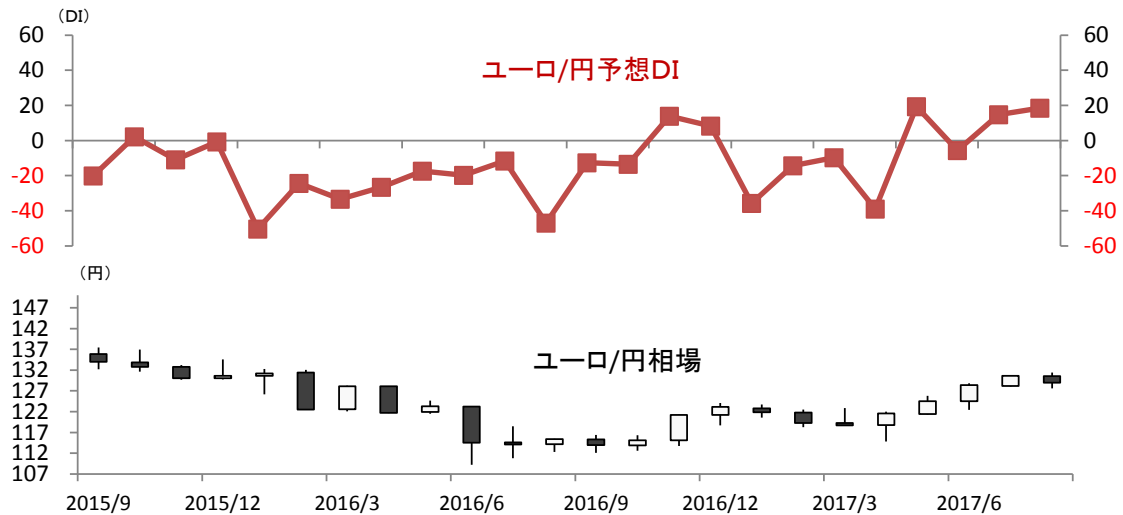
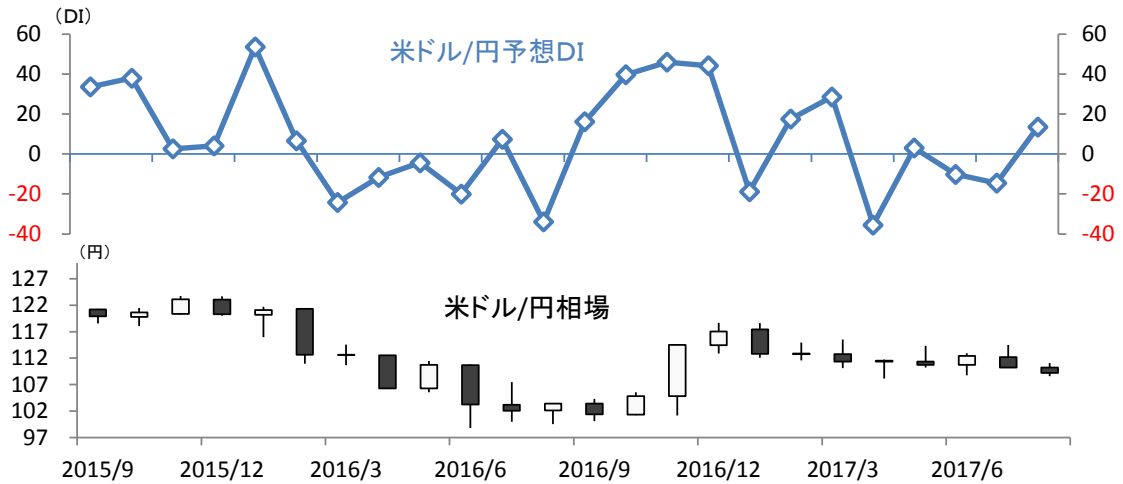
今回の特別質問として、「あなた個人の「景況感」はいかがですか？(ひとつだけ)」と尋ねたところ、「良くなっている」が15.8%、「悪くなっている」が20.4%であったのに対して「あまり変化なし」が63.8%と圧倒的に多かった。3カ月前の第96回調査では、それぞれ21.4%、23.3%、55.3%であった。FX投資家の景況感は改善も悪化もせずというのが、ここ数年来の傾向ではあるが、今回の調査では「良くなっている」の割合が低下しており、この点はやや気になるところだろう。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご承願いたします。

Copyright©2017 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【付表: 主要3通貨ペア予想DIと足の推移】



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。Copyright©2017 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【今後の調査実施計画及び公表方針】

本調査も第99回目となりました。調査開始から8年が経過し、データの蓄積が進んできました。今後については、毎月定点観測で実施する調査結果を基に、予想DIの時系列比較から見出せるFX投資家の相場観の変化やその傾向などのほか、中長期的な視点に基づいたFX投資家の投資スタイルの変化などの考察も進めて行きたいと考えています。

なお、毎月の本調査においては、公表扱いとしている質問項目及び回答結果の他に、「投資家の属性」、「取引頻度」、「取引規模」、「取引時間帯」、「投資選好」など、投資家実態を把握するために必要な各種の質問項目も設けて集計しています。それらの回答結果を用いた投資家の実態報告や属性別のクロス・セクション分析等については、当研究所が1年に1回、毎年中央以降に公表する「外為白書」で紹介する予定です。

【付表：主要3通貨ペア予想DIの推移】

		米ドル／円			ユーロ／円			豪ドル／円		
		米ドル高	米ドル安	DI	ユーロ高	ユーロ安	DI	豪ドル高	豪ドル安	DI
2015年	9月	37.1	34.5	2.6	24.9	35.8	-10.9	29.9	40.7	-10.8
	10月	30.3	26.2	4.1	30.3	31.1	-0.8	39.6	33.0	6.6
	11月	67.3	13.6	53.7	11.1	61.4	-50.3	34.4	25.6	8.8
	12月	43.8	37.1	6.7	19.7	44.1	-24.4	30.5	38.4	-7.9
	1月	27.3	51.5	-24.2	19.2	52.6	-33.4	22.8	52.5	-29.7
2016年	2月	34.7	46.3	-11.6	22.5	49.0	-26.5	32.3	41.3	-9.0
	3月	33.3	37.6	-4.3	24.8	42.1	-17.3	37.6	31.8	5.8
	4月	30.2	50.2	-20.0	24.2	43.9	-19.7	34.2	35.7	-1.5
	5月	40.8	33.4	7.4	22.6	38.2	-11.6	35.7	35.3	0.4
	6月	26.3	60.2	-33.9	20.0	67.0	-47.0	24.8	50.5	-25.7
	7月	48.3	32.1	16.2	32.1	44.7	-12.6	44.2	29.8	14.4
	8月	26.5	48.9	-22.4	17.2	48.1	-30.9	25.9	40.2	-14.3
	9月	34.5	36.8	-2.3	23.8	38.0	-14.2	28.4	35.4	-7.0
	10月	57.3	17.6	39.7	24.2	37.7	-13.5	43.3	23.0	20.3
	11月	65.9	19.9	46.0	38.7	24.8	13.9	47.0	21.2	25.8
	12月	64.4	20.2	44.2	36.6	28.3	8.3	50.0	21.6	28.4
	2017年	1月	35.2	54.0	-18.8	18.3	54.1	-35.8	28.9	35.5
2月		46.2	28.7	17.5	23.8	38.1	-14.3	41.9	23.1	18.8
3月		53.3	24.7	28.6	27.6	37.4	-9.8	36.1	23.1	13.0
4月		21.6	51.7	-35.5	17.7	56.6	-38.9	19.6	46.4	-26.8
5月		38.4	35.3	3.1	45.9	26.5	19.4	34.9	27.0	7.9
6月		33.3	43.4	-10.1	31.5	37.1	-5.6	33.7	25.7	8.0
7月		30.7	45.2	-14.5	42.4	27.6	14.8	42.8	26.9	15.9
8月		45.5	32.0	13.5	43.8	25.3	18.5	37.3	27.9	9.4

(出所)外為どっとコム総合研究所

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2017 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com